

北海道武蔵女子大学 経営学部

実務経験のある教員等による授業科目一覧

	科目名		授業形態	学年	単位	担当教員	備考
共通教養教育科目	1	プレゼンテーション技法	講義	1年	1	岡崎 和久	担当教員：札幌テレビ放送（株）アナウンサー
	2	インターンシップ	実習	3年	1	実習先企業	学生が企業に出向き、企業担当者の指導を受けながら実習を行う。
	3	ジェンダーとキャリアⅡ	講義	3年	1	学外講師	実社会において多様な働き方、生き方をしているゲスト数人を招いての授業。
	4	キャリアデザイン	講義	3年	2	長田 美恵子	担当教員：キャリアカウンセラー（フリーランス）
専門教育科目	5	デザイン基礎	講義	1年	2	若林 尚樹	担当教員：元富士ゼロックス(株)総合研究所工業デザイン研究室
	6	サービス産業論	講義	3年	2	佐藤 郁夫	担当教員：元(株)北海道銀行地域企業経営研究所主任研究員
	7	観光学	講義	3年	2	佐藤 郁夫	担当教員：元(株)北海道銀行地域企業経営研究所主任研究員
	8	デザイン論	講義	2年	2	若林 尚樹	担当教員：元富士ゼロックス(株)総合研究所工業デザイン研究室
	9	デザイン表現演習	演習	3年	2	若林 尚樹	担当教員：元富士ゼロックス(株)総合研究所工業デザイン研究室
	10	ウェブデザイン演習	演習	2年	2	安田 光孝	担当教員：元(株)つなぐネットコミュニケーションズ web ソリューショングループ マネージャー
	11	金融論	講義	3年	2	飯田 治	担当教員：(株)道銀地域総合研究所上席研究員
合計単位数					19		

実務経験のある教員等による授業科目の
授業計画書（シラバス）

経営学部経営学科

北海道武蔵女子大学

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
La1-4	1	1年	2025年度後期	1.00単位	講義

科目名	プレゼンテーション技法 <A> 前
担当教員	岡崎 和久
科目の概要	人前で話す重要性は現代でより増していますが、どのように話したらいいのか戸惑う人が増えています。本講義では、最終的に「就職活動等で自分をアピールする力を養うこと」を目的にして、自己理解・他者理解を通じたパブリック・スピーキングの経験を積み重ね、プレゼンテーションの技法を習得します。具体的には、自己紹介や他者紹介、世の中の課題や解決策に着目し、個人/グループでの発表形式で実践的に学びます。ここで得た力は、ゼミナールあるいは講義・演習における発表やディスカッションを行う際の基盤となる力を身につけることができます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解・他者理解を深める。 「傾聴力」とは何かを理解し、実践する。 「わかりやすく伝える力」を身につけ、実践する。 「個性は十人十色」と理解した上で「自分らしさを大切にしたい自己紹介」ができる。

授業の内容および計画

第1回	【オンデマンド】オリエンテーション：講師自己紹介/講義の進め方及び評価方法の説明
第2回	他者理解:傾聴のスキル、他者を知り、他者の魅力をプレゼン
第3回	自己理解①:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第4回	自己理解②:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第5回	プランド・ハップンスタンス理論:結果として自己を成長させたきっかけを、ゲーム形式で探し、プレゼン
第6回	Zoom プレゼン:就職活動での Zoom プレゼンに慣れる
第7回	プレゼンテーション①:個人もしくはグループで発表
第8回	プレゼンテーション②:個人もしくはグループで発表

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業で使用する資料はPDFで配布します。自己理解・他者理解用にA3無地のノートを一冊用意してください。				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

--	--	--	--	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

--	--	--	--	--

その他参考資料等	必要に応じて授業内で提示します。
----------	------------------

授業外学習（予習・復習）の具体的な内容および時間数	予習：予習課題に取り組み、指定された方法で期限内に提出する。（平均40分程度） 復習：授業内容や自分の発表を振り返り、改善点をまとめる。（平均20分程度）
---------------------------	--

アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション
------------	----------------------------------

評価方法	評価割合 (%)	備考
平常点	20%	毎回の授業でのリアクションペーパー提出。
その他	80%	授業内で行うプレゼンテーションおよび資料の評価。

フィードバックの方法	提出した課題のフィードバックは UNIPA または Teams、次回の授業で行います。授業中の実技についてはその場のコメントでフィードバックを行います。 授業アンケートのフィードバックは講評期間に UNIPA クラスプロファイルの授業資料に掲載します。
------------	---

授業の形態	対面授業
-------	------

授業に関する情報	Microsoft PowerPoint を使用します 授業当日にテレビ局勤務の為、急な取材等の仕事が入ることがあります。その場合は、授業内容の順番を入れ替えたり、オンデマンド授業に切り替えたりすることがあります。また補講日は必ず予定を空けておくこと。
----------	---

授業に関する実務経験	実務家講師による授業 札幌テレビ放送（株）にアナウンサーとして2001年入社。以来、テレビ、ラジオの情報番組を担当。現在は、TV どさんこワイド179キャスター、スポーツ実況（野球、サッカー、バスケットボール、ゴルフ、スキー・ジャンプ）を担当。 2023年北海道大学国際広報メディア観光学院修士修了（観光学） 2024年国家資格キャリアコンサルタント取得
------------	--

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
La1-4	1	1年	2025年度後期	1.00単位	講義

科目名	プレゼンテーション技法 <A>後
担当教員	岡崎 和久
科目の概要	人前で話す重要性は現代でより増していますが、どのように話したらいいのか戸惑う人が増えています。本講義では、最終的に「就職活動等で自分をアピールする力を養うこと」を目的にして、自己理解・他者理解を通じたパブリック・スピーキングの経験を積み重ね、プレゼンテーションの技法を習得します。具体的には、自己紹介や他者紹介、世の中の課題や解決策に着目し、個人/グループでの発表形式で実践的に学びます。ここで得た力は、ゼミナールあるいは講義・演習における発表やディスカッションを行う際の基盤となる力を身につけることができます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解・他者理解を深める。 「傾聴力」とは何かを理解し、実践する。 「わかりやすく伝える力」を身につけ、実践する。 「個性は十人十色」と理解した上で「自分らしさを大切にしたい自己紹介」ができる。

授業の内容および計画

第1回	【オンデマンド】オリエンテーション：講師自己紹介/講義の進め方及び評価方法の説明
第2回	他者理解:傾聴のスキル、他者を知り、他者の魅力をプレゼン
第3回	自己理解①:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第4回	自己理解②:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第5回	ブランド・ハップンスタンス理論:結果として自己を成長させたきっかけを、ゲーム形式で探し、プレゼン
第6回	Zoom プレゼン:就職活動での Zoom プレゼンに慣れる
第7回	プレゼンテーション①:個人もしくはグループで発表
第8回	プレゼンテーション②:個人もしくはグループで発表

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業で使用する資料はPDFで配布します。自己理解・他者理解用にA3無地のノートを一冊用意してください。				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

--	--	--	--	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

--	--	--	--	--

その他参考資料等	必要に応じて授業内で提示します。
----------	------------------

授業外学習（予習・復習）の具体的な内容および時間数	<p>予習：予習課題に取り組み、指定された方法で期限内に提出する。（平均 40 分程度）</p> <p>復習：授業内容や自分の発表を振り返り、改善点をまとめる。（平均 20 分程度）</p>
---------------------------	---

アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション
------------	----------------------------------

評価方法	評価割合 (%)	備考
平常点	20%	毎回の授業でのリアクションペーパー提出。
その他	80%	授業内で行うプレゼンテーションおよび資料の評価。

フィードバックの方法	<p>提出した課題のフィードバックは UNIPA または Teams、次回の授業で行います。授業中の実技についてはその場のコメントでフィードバックを行います。</p> <p>授業アンケートのフィードバックは講評期間に UNIPA クラスプロファイルの授業資料に掲載します。</p>
------------	--

授業の形態	対面授業
-------	------

授業に関する情報	<p>授業に関する情報：Microsoft PowerPoint を使用します</p> <p>授業当日にテレビ局で急な取材等の仕事が入ることがあり得ます。その場合は、授業内容の順番を入れ替えたり、オンデマンド授業に切り替えたりすることがあります。また補講日は必ず予定を空けておくこと。</p>
----------	--

授業に関する実務経験	<p>実務家講師による授業</p> <p>札幌テレビ放送（株）にアナウンサーとして 2001 年入社。以来、テレビ、ラジオの情報番組を担当。現在は、TV どさんこワイド 179 キャスター、スポーツ実況（野球、サッカー、バスケットボール、ゴルフ、スキー・ジャンプ）を担当。</p> <p>2023 年北海道大学国際広報メディア観光学院修士修了（観光学）</p> <p>2024 年国家資格キャリアコンサルタント取得</p>
------------	---

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
La1-4	1	1年	2025年度後期	1.00単位	講義

科目名	プレゼンテーション技法 前
担当教員	岡崎 和久
科目の概要	人前で話す重要性は現代でより増していますが、どのように話したらいいのか戸惑う人が増えています。本講義では、最終的に「就職活動等で自分をアピールする力を養うこと」を目的にして、自己理解・他者理解を通じたパブリック・スピーキングの経験を積み重ね、プレゼンテーションの技法を習得します。具体的には、自己紹介や他者紹介、世の中の課題や解決策に着目し、個人/グループでの発表形式で実践的に学びます。ここで得た力は、ゼミナールあるいは講義・演習における発表やディスカッションを行う際の基盤となる力を身につけることができます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解・他者理解を深める。 「傾聴力」とは何かを理解し、実践する。 「わかりやすく伝える力」を身につけ、実践する。 「個性は十人十色」と理解した上で「自分らしさを大切にしたい自己紹介」ができる。

授業の内容および計画

第1回	【オンデマンド】オリエンテーション：講師自己紹介/講義の進め方及び評価方法の説明
第2回	他者理解:傾聴のスキル、他者を知り、他者の魅力をプレゼン
第3回	自己理解①:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第4回	自己理解②:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第5回	ブランド・ハップンスタンス理論:結果として自己を成長させたきっかけを、ゲーム形式で探し、プレゼン
第6回	Zoom プレゼン:就職活動での Zoom プレゼンに慣れる
第7回	プレゼンテーション①:個人もしくはグループで発表
第8回	プレゼンテーション②:個人もしくはグループで発表

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業で使用する資料はPDFで配布します。自己理解・他者理解用にA3無地のノートを一冊用意してください。				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

--	--	--	--	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

--	--	--	--	--

その他参考資料等	必要に応じて授業内で提示します。
----------	------------------

授業外学習（予習・復習）の具体的な内容および時間数	<p>予習：予習課題に取り組み、指定された方法で期限内に提出する。（平均 40 分程度）</p> <p>復習：授業内容や自分の発表を振り返り、改善点をまとめる。（平均 20 分程度）</p>
---------------------------	---

アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション
------------	----------------------------------

評価方法	評価割合 (%)	備考
平常点	20%	毎回の授業でのリアクションペーパー提出。
その他	80%	授業内で行うプレゼンテーションおよび資料の評価。

フィードバックの方法	<p>提出した課題のフィードバックは UNIPA または Teams、次回の授業で行います。授業中の実技についてはその場のコメントでフィードバックを行います。</p> <p>授業アンケートのフィードバックは講評期間に UNIPA クラスプロファイルの授業資料に掲載します。</p>
------------	--

授業の形態	対面授業
-------	------

授業に関する情報	<p>授業に関する情報：Microsoft PowerPoint を使用します</p> <p>授業当日にテレビ局で急な取材等の仕事が入ることがあり得ます。その場合は、授業内容の順番を入れ替えたり、オンデマンド授業に切り替えたりすることがあります。また補講日は必ず予定を空けておくこと。</p>
----------	--

授業に関する実務経験	<p>実務家講師による授業</p> <p>札幌テレビ放送（株）にアナウンサーとして 2001 年入社。以来、テレビ、ラジオの情報番組を担当。現在は、TV どさんこワイド 179 キャスター、スポーツ実況（野球、サッカー、バスケットボール、ゴルフ、スキージャンプ）を担当。</p> <p>2023 年北海道大学国際広報メディア観光学院修士修了（観光学）</p> <p>2024 年国家資格キャリアコンサルタント取得</p>
------------	--

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
La1-4	1	1年	2025年度後期	1.00単位	講義

科目名	プレゼンテーション技法 後
担当教員	岡崎 和久
科目の概要	人前で話す重要性は現代でより増していますが、どのように話したらいいのか戸惑う人が増えています。本講義では、最終的に「就職活動等で自分をアピールする力を養うこと」を目的にして、自己理解・他者理解を通じたパブリック・スピーキングの経験を積み重ね、プレゼンテーションの技法を習得します。具体的には、自己紹介や他者紹介、世の中の課題や解決策に着目し、個人/グループでの発表形式で実践的に学びます。ここで得た力は、ゼミナールあるいは講義・演習における発表やディスカッションを行う際の基盤となる力を身につけることができます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解・他者理解を深める。 「傾聴力」とは何かを理解し、実践する。 「わかりやすく伝える力」を身につけ、実践する。 「個性は十人十色」と理解した上で「自分らしさを大切にしたい自己紹介」ができる。

授業の内容および計画

第1回	【オンデマンド】オリエンテーション：講師自己紹介/講義の進め方及び評価方法の説明
第2回	他者理解:傾聴のスキル、他者を知り、他者の魅力をプレゼン
第3回	自己理解①:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第4回	自己理解②:自分史の作成、自己の魅力をプレゼン
第5回	ブランド・ハップンスタンス理論:結果として自己を成長させたきっかけを、ゲーム形式で探し、プレゼン
第6回	Zoom プレゼン:就職活動での Zoom プレゼンに慣れる
第7回	プレゼンテーション①:個人もしくはグループで発表
第8回	プレゼンテーション②:個人もしくはグループで発表

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業で使用する資料はPDFで配布します。自己理解・他者理解用にA3無地のノートを一冊用意してください。				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

--	--	--	--	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

--	--	--	--	--

その他参考資料等	必要に応じて授業内で提示します。
----------	------------------

授業外学習（予習・復習）の具体的な内容および時間数	<p>予習：予習課題に取り組み、指定された方法で期限内に提出する。（平均 40 分程度）</p> <p>復習：授業内容や自分の発表を振り返り、改善点をまとめる。（平均 20 分程度）</p>
---------------------------	---

アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション
------------	----------------------------------

評価方法	評価割合 (%)	備考
平常点	20%	毎回の授業でのリアクションペーパー提出。
その他	80%	授業内で行うプレゼンテーションおよび資料の評価。

フィードバックの方法	<p>提出した課題のフィードバックは UNIPA または Teams、次回の授業で行います。授業中の実技についてはその場のコメントでフィードバックを行います。</p> <p>授業アンケートのフィードバックは講評期間に UNIPA クラスプロファイルの授業資料に掲載します。</p>
------------	--

授業の形態	対面授業
-------	------

授業に関する情報	<p>授業に関する情報：Microsoft PowerPoint を使用します</p> <p>授業当日にテレビ局で急な取材等の仕事が入ることがあり得ます。その場合は、授業内容の順番を入れ替えたり、オンデマンド授業に切り替えたりすることがあります。また補講日は必ず予定を空けておくこと。</p>
----------	--

授業に関する実務経験	<p>実務家講師による授業</p> <p>札幌テレビ放送（株）にアナウンサーとして 2001 年入社。以来、テレビ、ラジオの情報番組を担当。現在は、TV どさんこワイド 179 キャスター、スポーツ実況（野球、サッカー、バスケットボール、ゴルフ、スキージャンプ）を担当。</p> <p>2023 年北海道大学国際広報メディア観光学院修士修了（観光学）</p> <p>2024 年国家資格キャリアコンサルタント取得</p>
------------	--

北海道武蔵女子大学シラバス

No.	科目名	単位数	学年	学期	担当教員
Lb2-2					
DP	インターンシップ	1	3	前・後	宮本 知加子
1					
科目の概要	<p>本講義は、キャリア教育の一環として、インターンシップを進路選択やキャリア形成に役立てることを目的とした、個人単位で参加するインターンシッププログラムです。履修登録をした学生は、まず事前学修でインターンシップの目標の作成および自己紹介の準備を行い、そのうえでインターンシップ（5日間以上）に参加する。最後に事後学修として振り返りと経験談を共有するグループワークを実施する。一連の学びを通じて、キャリア形成力を身につけます。</p>				
到達目標	<p>①自身の進路について主体的に考え行動にうつることができる、②企業の実践の場で直面した課題に対して粘り強く取り組むことができる、③先輩社員をはじめとする他者と協働し、チームで働くことができる、④卒業後の進路について明確な方向性を示すことができる</p>				
授業の内容 および 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 概要説明と事前準備、ビジネスマナーの復習（第1回目） 2. 事前学習（事前課題の作成と自己PR） <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの目標・目的を明らかにした事前課題を作成すること。 ・実習先での自己紹介を想定した自己PRを全体の前で話せるように準備すること。 3. 企業での実習①（1日目） 4. 企業での実習②（2日目） 5. 企業での実習③（3日目） 6. 企業での実習④（4日目） 7. 企業での実習⑤（5日目） 8. 事後評価 ふりかえりの面談 <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ふりかえりと経験談の共有、就職活動に向けて（第22回） 				
テキスト	<p>大学が制作した『キャリアサポートガイドブック』を使用します。</p>				
参考資料	<p>就職資料集を参考にしてください。</p>				
授業外学修 (予習・復習)の 具体的内容 および時間数	<p>予 習：インターンシップの実施前の企業研究、業界研究を入念に実施すること。1年次「武蔵のキャリア教育」で実施したビジネスマナーについて復習すること。 復 習：インターンシップの活動日記をつけ、一日の活動内容・スケジュールを記録するとともに、気づき・学び・課題についてまとめること。 時間数：予習・復習ともに30分程度。</p>				
評価方法 および 評価基準	<p>インターンシップの企業からの評価シート、ふりかえり面談およびグループワークによって総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 企業からの評価シート：60% 2) ふりかえり面談：20% 3) グループワーク：20% 				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次「武蔵のキャリア教育」の単位を履修済みでなければ履修することができません。 ・5日間以上のインターンシップでなければ、単位認定することができません。 ・本科目は、民間企業等において、実際にそこに勤める方の指導の下で就労体験や実務経験を行い、実践的教育により「到達目標」欄に記す力を身につけます。 				

北海道武蔵女子大学シラバス

No.	科目名	単位数	学年	学期	担当教員
Lb3-3					
DP	キャリアデザイン	2	3	後	長田 美恵子
1					
科目の概要	<p>大学生活を通じた様々な経験を具体的な進路に結びつけ考察することで、主体的に自己のキャリアを選択・決定できる能力を身につけることを目的とします。第1に、各業界の専門家や企業の担当者のパネルディスカッションを実施し、業界や職種への理解を深める。第2に、グループワークによる相互学習によって、日頃の学問研究、インターンシップやその他の課外活動、アルバイト経験などが、実際の職業や職種にどのように接続するのかを考え、自らのキャリアについての考えを深めます。第3に、就職活動の準備として履歴書の書き方や面接対策なども実施します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各業界の構造やトレンド、職種に必要とされる知識やスキルについて理解する ・大学での学びや課外活動での経験をふまえ自身の将来について考察できる 				
授業の内容 および 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (第1回) 2. 自己分析のグループワーク① (第2回) 3～4. 産業・業界研究のグループワーク① (第3～4回) 5～6. 産業・業界研究のグループワーク② (第5～6回) 7～8. 産業・業界研究のグループワーク③ (第7～8回) 9～10. 産業・業界研究のグループワーク④ (第9～10回) 11～12. ビジネスマナー、面接対策① (第11～12回) 13～14. ビジネスマナー、面接対策② (第13～14回) 15. まとめ 自己分析のグループワーク② (第15回) 				
テキスト	<p>大学が制作した『キャリアサポートガイドブック』を使用します。</p>				
参考資料	<p>就職資料集を参考にしてください。</p>				
授業外学修 (予習・復習)の 具体的内容 および時間数	<p>予 習：実施前の企業研究、業界研究を入念に実施すること。1年次「武蔵のキャリア教育」で実施したビジネスマナーについて復習すること。</p> <p>復 習：業界研究のグループワークの内容をふりかえるとともに、気づき・学び・課題についてまとめること。</p> <p>時間数：予習・復習ともに120分程度。</p>				
評価方法 および 評価基準	<p>各講義の課題レポート、グループワークへの参加態度等によって総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各講義の課題レポート：70% 2) グループワーク等への参加態度・意欲：30% 				
特記事項	<p>本科目は、キャリアコンサルタントの実務経験を持つ教員による授業です。授業は、その実務経験に基づいて行われ、「到達目標」欄に記す力を身につけます。</p>				

北海道武蔵女子大学シラバス

No.	科目名	単位数	学年	学期	担当教員
Lb3-4					
DP	ジェンダーとキャリアⅡ	1	3・4	後期	明田川 知美
1					
科目の概要	<p>「ジェンダーとキャリアⅠ」で学んだキャリア論やマクロ的な考察をふまえ、女性を取り巻く今日的な課題や性的多様性、社会における平等と公平について関心をもち主体的に考える力を身に付けます。具体的には、実社会において多様な働き方、生き方を実践しているゲストをお招きし、ゲストとの対話を通じて、多様な意見や考え方を知り、そこから新たな発見や気づきを得ることを目指します。</p>				
到達目標	<p>① 様々な人の意見や考え方を知り、そこから新たな発見や気づきを得る ② ジェンダーに関する今日的な課題について関心をもち主体的に考える力をつける ③ 自らの人生観に向き合い、今後のキャリアデザインを考える力をつける</p>				
授業の内容 および 計画	<p>1. オリエンテーション：授業の進め方や評価など基本事項の説明 2. 導入講義：ジェンダーをめぐる論点～基本的な視座～ 3. 男女共同参画の地平～フェミニズムからジェンダーとLGBTQの時代へ～ 4. 講座① 多様な働き方とキャリアデザイン (北海道新聞社編集局 暮らし報道部長 木崎美和 氏) 5. 講座② 多様な地域とスタイルではたらく～NPOと社会的事業～ (不登校の親の会ポレポレ代表 竹内祐子 氏) 6. 講座③ 女性支援の現場と視点から (太田明子ビジネス工房 代表、サッポロバイクプロジェクト合同会社 代表執行社員 太田明子氏) 7. 講座④ 新しい時代のワークライフバランスを考える (弁護士、河谷・八代法律事務所 八代眞由美 氏) 8. まとめ：自分自身の10年後を描く</p>				
テキスト	講義でプリントを配布する				
参考資料	海老原嗣生 (2012) 『女子のキャリア —— 〈男社会〉のしくみ、教えます』 筑摩書房 中野円佳(2014) 『「育休世代」のジレンマ 女性活用はなぜ失敗するのか?』 光文社				
授業外学修 (予習・復習)の 具体的内容 および時間数	<p>予習：新聞など身近な媒体を利用して自分が関心を持てる事柄を調べる 復習：講義で学んだ内容を意識してニュースや新聞に目を通す 時間数：1週間のうちに予習・復習合それぞれ120分程度とする</p>				
評価方法 および 評価基準	<p>平常点（講義感想文提出、課題提出等）40% 学期末レポート 60% ＊評価基準として学習意欲、文章の完成度、理解度の各観点を設定し総合的に判断する。</p>				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、学外からゲスト講師数人を招いて、その実務経験等に基づいて授業を展開し、「到達目標」欄に記す力を身につけます。 ・主体的な学習への取り組みを求めます。 ・居眠りや私語が目立つ場合は受講を認めません。 				

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
Be1-1	3,4	1年	2025年度前期	2.00単位	講義

科目名	デザイン基礎<A>
担当教員	若林 尚樹
科目の概要	生活の中のさまざまな場面で目にするデザインへの興味・関心をきっかけとして、デザインの基礎となる技術とそれを効果的に活用するための考え方を、身近な課題をテーマとした一連のデザインプロセスにそった講義と演習によって学びます。グラフィックシンボルやピクトグラム、色彩の基礎と配色、レイアウトデザインなどをテーマに、グラフィック系アプリケーションの基本的な操作の演習とともに体験します。
到達目標	①自分たちの生活の中で使われているさまざまなデザインやその表現手法に関心を持ち、分析的に観察する視点を持つ。 ②グラフィックデザインを基礎として「あらわす」「みせる」「つたえる」にそった表現を工夫することができる。 ③アイデア展開から表現までの流れを理解し、提出作品としてまとめ、発表することができる。

授業の内容および計画

第1回	ガイダンス：なにを学ぶのか、どのように学ぶのか、まずは描いてみる
第2回	あらわす：シンボルとロゴマーク、シンボルマーク
第3回	あらわす：シンボルマークの調査
第4回	あらわす：アイデア展開
第5回	あらわす：図形作成の基本
第6回	あらわす：シンボルマークの制作
第7回	あらわす：作品の発表と講評
第8回	みせる：色彩の基本、配色演習
第9回	みせる：色彩構成の作品制作
第10回	みせる：作品の発表と講評
第11回	つたえる：フライヤーのデザイン 調査とアイデア検討
第12回	つたえる：フライヤーのデザイン 素材の制作
第13回	つたえる：フライヤーのデザイン 作品制作
第14回	つたえる：作品の発表と講評
第15回	まとめ：デザイン基礎で学んだこと

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし。必要に応じて授業で配布する				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

--	--	--	--	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

ノンデザイナーズ・デザインブック [第4版]	ロビン・ウィリアムズ	マイナビ出版	4839983798	2023年発行
------------------------	------------	--------	------------	---------

その他参考資料等

授業外学習（予習・復習）の具体的な内容および時間数	予習：講義計画にそって次回に向けて事例の収集や事前の調査等を各自行うこと。 復習：演習にともない授業時間で行なった課題制作の作業を進めるなどの事後学習の時間を確保すること。 時間数：予習・復習あわせて120分程度
---------------------------	--

アクティブラーニング PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション

評価方法	評価割合（％）	備考
平常点	40%	授業内課題レポート、リフレクションペーパー
講義中テスト	20%	課題条件にそった制作の意図や内容などを発表として説明できる
講義中テスト	40%	提出された課題が出題条件にそっている

フィードバックの方法	提出されたレポート・課題等については授業内で全体的な傾向や代表的な事例についての講評・コメントを行います。 また、授業に関する質問は授業 Teams の投稿で受け付けます。 授業アンケートのフィードバックは講評期間に授業 Teams で公開します。
------------	--

授業の形態	対面授業
授業に関する情報	課題制作のためのグラフィック系ソフトの基本操作は授業内でレクチャーを行います。
授業に関する実務経験	実務家講師による授業。 企業のデザイン部門におけるデザイナーとして勤務経験のある教員がデザインの基礎的な技術・手法とその活用について授業を行う。

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
Be1-1	3,4	1年	2025年度前期	2.00単位	講義

科目名	デザイン基礎
担当教員	若林 尚樹
科目の概要	生活の中のさまざまな場面で目にするデザインへの興味・関心をきっかけとして、デザインの基礎となる技術とそれを効果的に活用するための考え方を、身近な課題をテーマとした一連のデザインプロセスにそった講義と演習によって学びます。グラフィックシンボルやピクトグラム、色彩の基礎と配色、レイアウトデザインなどをテーマに、グラフィック系アプリケーションの基本的な操作の演習とともに体験します。
到達目標	①自分たちの生活の中で使われているさまざまなデザインやその表現手法に関心を持ち、分析的に観察する視点を持つ。 ②グラフィックデザインを基礎として「あらわす」「みせる」「つたえる」にそった表現を工夫することができる。 ③アイデア展開から表現までの流れを理解し、提出作品としてまとめ、発表することができる。

授業の内容および計画

第1回	ガイダンス：なにを学ぶのか、どのように学ぶのか、まずは描いてみる
第2回	あらわす：シンボルとロゴマーク、シンボルマーク
第3回	あらわす：シンボルマークの調査
第4回	あらわす：アイデア展開
第5回	あらわす：図形作成の基本
第6回	あらわす：シンボルマークの制作
第7回	あらわす：作品の発表と講評
第8回	みせる：色彩の基本、配色演習
第9回	みせる：色彩構成の作品制作
第10回	みせる：作品の発表と講評
第11回	つたえる：フライヤーのデザイン 調査とアイデア検討
第12回	つたえる：フライヤーのデザイン 素材の制作
第13回	つたえる：フライヤーのデザイン 作品制作
第14回	つたえる：作品の発表と講評
第15回	まとめ：デザイン基礎で学んだこと

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし。必要に応じて授業で配布する				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

--	--	--	--	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

ノンデザイナーズ・デザインブック [第4版]	ロビン・ウィリアムズ	マイナビ出版	4839983798	2023年発行
------------------------	------------	--------	------------	---------

その他参考資料等

授業外学習（予習・復習）の具体的な内容および時間数	予習：講義計画にそって次回に向けて事例の収集や事前の調査等を各自行うこと。 復習：演習にともない授業時間で行なった課題制作の作業を進めるなどの事後学習の時間を確保すること。 時間数：予習・復習あわせて120分程度
---------------------------	--

アクティブラーニング PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション

評価方法	評価割合（％）	備考
平常点	40%	授業内課題レポート、リフレクションペーパー
講義中テスト	20%	課題条件にそった制作の意図や内容などを発表として説明できる
講義中テスト	40%	提出された課題が出題条件にそっている

フィードバックの方法	提出されたレポート・課題等については授業内で全体的な傾向や代表的な事例についての講評・コメントを行います。 また、授業に関する質問は授業 Teams の投稿で受け付けます。 授業アンケートのフィードバックは講評期間に授業 Teams で公開します。
------------	--

授業の形態	対面授業
授業に関する情報	課題制作のためのグラフィック系ソフトの基本操作は授業内でレクチャーを行います。
授業に関する実務経験	実務家講師による授業。 企業のデザイン部門におけるデザイナーとして勤務経験のある教員がデザインの基礎的な技術・手法とその活用について授業を行う。

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
Be2-3	4,5	2年	2025年度前期	2.00単位	講義

科目名	デザイン論
担当教員	若林 尚樹
科目の概要	わたしたちの日常生活の中でデザインは、さまざまな場面でいろいろな役割を果たしています。日用品からファッション、ブランディングや広告、グラフィックや映像など、生活の中でのモノのデザインからライフスタイルとしてのコトのデザインまでさまざまな分野があります。この授業ではそれらの中で代表的ないくつかの分野を社会的・文化的要因も含めた視点から概観し、現代やこれからの社会におけるデザインの役割について、経営という視点からグループワークでのディスカッションも交えながら考察します。
到達目標	① デザインの種類と領域が理解できる ② さまざまなデザインの目的とデザイン活動の広がりが理解できる ③ デザインがわたしたちの生活とどのように結びついているのかが理解できる

授業の内容および計画

第1回	ガイダンス、ブランドデザイン（シンボルマークとデザインの役割）
第2回	生活の中のデザイン（パッケージデザイン）
第3回	企業のブランディングデザイン
第4回	デザイン思考とアート思考、それぞれのデザインプロセス
第5回	ブランディングとデザインについての考察
第6回	デザインの歴史的な潮流
第7回	生活の中のデザインの変遷（プロダクトデザインの歴史）
第8回	企業の広告としてのポスター表現
第9回	企業の広告と表現についての考察
第10回	フランス映画の映像表現
第11回	アメリカ映画の映像表現
第12回	ハリウッドの映画とあたらしい映像表現
第13回	企業の広告としての映像表現（CMとしての映像表現の変遷）
第14回	「音楽を聴く」のデザイン（透明化するコンピュータ）
第15回	生活の中でのデザインの役割についての考察

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし。必要に応じて授業で配布する				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

--	--	--	--	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

カラー版 世界デザイン史	阿部公正 他	美術出版社	4568400848	2012
--------------	--------	-------	------------	------

その他参考資料等	
----------	--

授業外学習（予習・復習）の具体的な内容および時間数	予習：授業計画にそって各授業で取り上げる分野におけるテーマを題材に、デザイン論という視点から意識して見直してみるよう、授業時に具体的な指示をする。 復習：授業時間相当の調査をおこない、指示にしたがってレポートや課題を作成すること。 時間数：予習・復習ともに90分程度
---------------------------	---

アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
------------	----------------------------------

評価方法	評価割合（％）	備考
レポート	50%	それぞれの分野における課題テーマにそって出題されたいくつかのレポート
平常点	50%	授業内ミニレポート、リフレクションペーパー

フィードバックの方法	提出されたレポート・課題等については授業内で全体的な傾向や代表的な事例についての講評・コメントを行います。 また、授業に関する質問は授業 Teams の投稿で受け付けます。 授業アンケートのフィードバックは講評期間に授業 Teams で公開します。
------------	--

授業の形態	対面授業
-------	------

授業に関する情報	グループワークでのディスカッションも交えながら授業を進めます。
----------	---------------------------------

授業に関する実務経験	実務家講師による授業。 企業のデザイン部門におけるデザイナーとして勤務経験のある教員が授業を行う。
------------	--

北海道武蔵女子大学シラバス

No.	科目名	単位数	学年	学期	担当教員
Be3-9					
DP					
3, 4	デザイン表現演習	2	3・4	前期	若林尚樹
科目の概要	デザイン表現の基本となる伝えたい想いをメッセージとして言語化、ビジュアル化、シンボル化する基礎的な手法を理解し、それとともにデザインとしての表現の可能性を広げ、伝わる表現にするための法則を学ぶ。また、デザインのプロセスを通して、デザイン思考のアプローチを体験的に学びながら、その背景にあるヒトとモノとコトの関係に着目したメッセージやユーザ体験を含んだコミュニケーションデザインとして、企画・提案する力を身につける。				
到達目標	① 客観性をもった情報や状況の分析・評価能力による論理的な課題設定に取り組む ② クリエイティブなアプローチによる問題解決力を養う ③ 具体的な課題テーマを対象に、これまで培ったデザイン能力を実践し、自ら検証する。				
授業の内容 および 計画	1. 概要、準備、イメージマップ 2. イメージマップによるアイデア展開 3. 調査結果の分析、まとめ 4. レクチャーと検討：動機のデザインとデザイン思考 5. アイデア展開：グラフィックコミュニケーションによるアイデア展開 6. 現地調査 7. 分析とまとめ 8. エスキスチャックとクリニック 9. コンセプトをもとにしたプロトタイプ制作 10. 中間プレゼンテーション 11. デザイン提案のまとめ、制作。 12. 学内プレゼンテーション 13. 提案のブラッシュアップ 14. 提案の評価と検証 15. 最終プレゼンテーション				
テキスト	授業進行に合わせて資料を配布する				
参考資料	授業進行に合わせて参考資料を紹介する				
授業外学修 (予習・復習)の 具体的内容 および時間数	予習：書籍や配布された資料等の読み込み、情報の収集と整理等を行うこと。担当教員毎の課題に対し、進捗報告用のレジメ等をまとめること。 復習：指摘・指導内容を十分吟味し、見直し・再検証を行うこと。必要に応じて、報告書、モデル作成、プロトタイピング等を行うこと。 時間数：予習・復習ともに 30 分程度。				
評価方法 および 評価基準	授業内レポート・授業態度・発表、作品等の結果を総合して評価する。 1) 授業内レポート 20%：リフレクションペーパーやレポートをもとに評価する 2) 授業態度 20%：授業時間を効果的に活用して制作を行う 3) 発表 35%：課題条件にそった提案の意図や内容などを説明できる 4) 作品 25%：出題条件にそった課題をすべて提出していること				
特記事項	課題制作には Photoshop、Illustrator 等のグラフィック系ソフトでの制作を含みます。 なお、本科目は企業のデザイン研究部署に勤めていた実務経験を有する教員による授業です。その実務経験に基づく授業により、「到達目標」欄に記す力を身につけます。				

北海道武蔵女子大学シラバス

No.	科目名	単位数	学年	学期	担当教員
Bb2-7					
DP	サービス産業論	2	3・4	前期	佐藤 郁夫
4					
科目の概要	<p>現在、我が国など先進国の産業構造は、その大部分をサービス産業が占めています。産業分類には、多くの業種が入っていますが、本講義では、主に北海道経済と密接な飲食宿泊業等の観光関連サービス業に加え、関連の深い小売業、銀行・運輸業・不動産業などについて入門的かつ増加しているニュービジネス的視点に立つことで、サービス産業に対する知識を深めます。講義を通じて、サービス産業全般についての基礎的な知識を身につけることができます。</p>				
到達目標	<p>① サービス業全般についての基礎を理解する。 ② 観光関連サービス業、小売業・運輸業など個別業種について理解する。 ③ 新型サービス戦略等を理解する。</p>				
授業の内容 および 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義の進め方および評価方法の説明 2. サービス産業の分類について（我が国の産業分類、WTO 事務局、一般的な考え方等） 3. 観光関連産業における産業クラスター理論のあてはめについて 4. 観光関連サービス業の動向 5. 観光関連サービス業の振興に求められる人材の要素 6. 理解度を深めるためのふりかえりと小レポート 7. 観光関連サービス業としての小売業・レジャー産業等の動向 8. 観光関連サービス業としての小売業・レジャー産業等の新サービス 9. 観光関連サービス業としての銀行・運輸業（航空・鉄道）・不動産業等の理解 10. 観光関連サービス業としての銀行・運輸業（航空・鉄道）・不動産業等の動向 11. 観光関連サービス業としての銀行・運輸業（航空・鉄道）・不動産業等の新サービス 12. 理解度を深めるためのふりかえりと小レポート2 13. 各産業の担い手にとって重要になっている事業承継について 14. 各産業のネットワークを活かすには（北海道新幹線などをケーススタディに） 15. 講義の振り返りと学期末レポートについての説明 				
テキスト	<p>使用しない。適宜プリントや資料を配布する。</p>				
参考資料	<p>M・E・ポーター『競争戦略論』ダイヤモンド社 （一般財団法人）北海道開発協会発行『北海道観光 50 年の軌跡』</p>				
授業外学修 （予習・復習）の 具体的内容 および時間数	<p>予習：事前に参考資料を読んでおく。 復習：配布した資料や講義内容を振り返って、理解を深めておく。 時間数：予習・復習ともに 90 分程度。</p>				
評価方法 および 評価基準	<p>学期末のレポートと小レポートの合計で評価する。 平常点（小レポート2回、課題の提出）：40% 学期末レポート：60%</p>				
特記事項	<p>課題への積極参加を望みます。 なお、本科目は銀行の調査部門において主任研究員として勤めていた実務経験を持つ教員が担当し、その実務経験に基づいて行われる授業により、「到達目標」欄に記す力を身につけます。</p>				

北海道武蔵女子大学シラバス

No.	科目名	単位数	学年	学期	担当教員
Bb2-8					
DP					
4	観光学	2	3・4	後期	佐藤 郁夫
科目の概要	<p>本講義は、地域経済にとって重要な産業である観光について、人口動態、消費者動向、エコツーリズム、地域振興など様々な観点から理解を深めます。観光があてはまる産業は幅が広く、多くが関わりを持っている上に外国人の買い物が「見えざる輸出」となって地域振興にとって大きな役割を担っています。このため、地域・商品ブランド戦略、産業育成策などについても知識を深めます。講義を通じて観光と経済の関わり、観光とマーケティングの関係、地域の持続的な成長について理解する力を身につけることができます。</p>				
到達目標	<p>① 観光と経済の関わりについて理解する。 ② 観光をサービスマーケティングやブランド戦略の観点から理解する。 ③ 持続的な成長について理解する。</p>				
授業の内容 および 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義の進め方および評価方法の説明 2. 観光と経済の関係について（距離論、見えざる輸出等） 3. サービス産業としての観光 4. 施設と観光 5. 情報（口コミ等）と観光 6. 品質と保証 7. 理解度を深めるためのふりかえりと小レポート 8. 観光の創造的視点 9. エコツーリズム、グリーンツーリズム 10. アドベンチャーツーリズム、レジャー 11. MICE、アニメなどのイベント 12. 理解度を深めるためのふりかえりと小レポート2 13. 観光のライフサイクル 14. 観光戦略の持続的成長、地域振興についての行程表試作 15. 講義の振り返りと学期末レポートについての説明 				
テキスト	<p>使用しない。適宜プリントや資料を配布する。</p>				
参考資料	<p>佐藤郁夫『観光と北海道経済』北海道大学出版会 「アドベンチャーツーリズム」『地球人』第83号</p>				
授業外学修 (予習・復習) の 具体的内容 および時間数	<p>予習：事前に参考資料を読んでおく。 復習：配布した資料や講義内容を振り返って、理解を深めておく。 時間数：予習・復習ともに90分程度。</p>				
評価方法 および 評価基準	<p>学期末のレポートと小レポートの合計で評価する。 平常点（小レポート2回、課題の提出）：40% 学期末レポート：60%</p>				
特記事項	<p>本科目は銀行の調査部門において主任研究員として勤めていた実務経験を持つ教員が担当し、その実務経験に基づいて行われる授業により、「到達目標」欄に記す力を身につけます。また、実際に現場で従事する関係者を招いて、その声を聞く機会を設けたいと考えています。</p>				

北海道武蔵女子大学シラバス

No.	科目名	単位数	学年	学期	担当教員
Bc3-9					
DP	金融論	2	3・4	後	飯田 治
4					
科目の概要	<p>本講義では、まずは金融の基本について、金融のはたす役割・機能に基づき整理し、全てにかかわる金融仲介機関である銀行の機能と脆弱性について学びます。そして、金融経済の血液として、企業・家計・政府において非常に重要な役割を果たしている証券取引について学びます。証券の仕組みと役割を学ぶとともに、株式投資の模擬実習「株式学習ゲーム」を通じて、株式相場と社会・経済の動きとの関連性、企業の評価等を学びます。講義を通じて金融全般についての基礎的な知識を身につけることができます。</p>				
到達目標	<p>①有価証券（株式・債券・投資信託）の基本を理解する。 ②金融業務の中の証券業務を理解する。 ③リスクとリターンを認識し、ライフプランの設計を理解する。</p>				
授業の内容 および 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション講義の進め方、実習「株式学習ゲーム」、評価方法について説明する。 2. 経済・財務の基礎知識① 証券に関する経済について復習する。 3. 経済・財務の基礎知識② 証券に関する財務について復習する。 4. 資産運用の基礎知識資産運用、リスクとリターン、金融商品を知り、ライフプランを設計する。 5. 証券の基礎① 証券の役割と種類、特徴を知る。 6. 証券の基礎② 証券市場の仕組み、証券会社の役割を知る。 7. 株式の基礎① 株式の種類と株主の権利、株式会社の歴史を知る。 8. 株式の基礎② 株式の公開、増資による資金調達、株式投資を学ぶ。 9. 株式の基礎③ 株価の変動とその要因、日経平均株価、TOPIX、インサイダー取引を学ぶ。 10. 債券の基礎① 債券の種類、債券と株式の違い、公社債の歴史を学ぶ。 11. 債券の基礎② 債券の格付、債券の価格と金利、利回り計算を学ぶ。 12. 投資信託の基礎① 投資信託の仕組み、投資信託のメリットとリスクを学ぶ。 13. 投資信託の基礎② 投資信託の種類、投資信託の選び方を学ぶ。 14. ライフプランの設計講義で学んだ株式・債券・投資信託の知識を生かし、ライフプランを設計する。 15. 実習結果発表、まとめ「株式学習ゲーム」の結果発表、学んだ内容を振り返り、証券の必要性を再認識する。 				
テキスト	講師作成の資料を配布する。				
参考資料	特になし。必要に応じ、適宜紹介する。				
授業外学修 (予習・復習)の 具体的内容 および時間数	<p>予 習：新聞等で証券・企業等の動向を把握すること。 復 習：講義内で取り扱った範囲の要点のまとめ、再度資料を読むこと。 時間数：予習・復習で各 120 分程度が必要。</p>				
評価方法 および 評価基準	<p>学期末試験を行う。 授業参加：20%、平常点（実習、課題提出）：60%、学期末試験：20%</p>				
特記事項	<p>本科目は、銀行に勤務し、長年の金融業務の実務経験を有する教員による授業です。授業は、その実務経験に基づいて行われ、「到達目標」欄に記す力を身につけます。</p>				

No.	DP	学年	学期	単位数	授業の方法
Be2-5	1,2,4	2年	2025年度後期	2.00単位	演習

科目名	ウェブデザイン演習
担当教員	安田 光孝
科目の概要	<p>昨今、ネットを使用した広告施策が消費者へのリーチを増やすための手段として一般的となっています。この講義ではまず、Web ページとバナー広告を制作するデザイン技術の基本を学びます。そしてその技術を活用してバナー広告を活用したネット広告の戦略とそれに応じたバナーと Web ページ（ランディングページ）のプロトタイプ制作を行います。最後に成果物のプレゼンテーションを実施し、成果物を全体で共有します。※この授業ではコーディング（HTML/CSS）は行いません。</p> <ol style="list-style-type: none"> Web デザインの基本 Figma（デザインソフト※学生無償）を使い、Web ページをデザインする基本テクニックを学びます Figma →https://www.figma.com/ バナー広告制作の基本 Adobe Illustrator と Photoshop を使い、バナー広告をデザインする基本テクニックを学びます ネット広告戦略立案と広告クリエイティブ制作 ネット広告の戦略を立て、それに基づくバナー広告とその受け皿となる Web ページ（ランディングページ）を Figma で制作します ユーザー調査 制作した広告クリエイティブのユーザー調査を行い、デザインを最適化します
到達目標	<p>本科目の学修成果目標は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Web ページ、バナー広告をデザインするうえでの基本知識を身につける ネットを活用した広告戦略の基本を身につける 広告戦略に基づいたクリエイティブ制作ができるようになる

授業の内容および計画

第1回	【オンデマンド授業】授業のオリエンテーション：この授業の進め方や評価方法など、決まりごとについて説明する Figma（デザインソフト※学生無償）の設定と基本的な使い方を学ぶ
第2回	Web ページのデザイン：Figma のテンプレートを使って簡単な Web ページ（1 ページ）を作ってみる
第3回	Web サイトのデザイン 1：Web サイト（複数ページ）の企画を考え、サイトマップを作成する。
第4回	Web サイトのデザイン 2：サイトマップに基づき、ワイヤーフレーム（ページ設計書）を作成する。
第5回	Web サイトのデザイン 3：ワイヤーフレームに基づき、Web サイトをデザインする
第6回	Web サイトのデザイン 4：Web サイトデザインをプロトタイプとして動かしてみる
第7回	バナー広告のデザイン 1：Illustrator と Photoshop の使い分けを理解する
第8回	バナー広告のデザイン 2：テーマに応じて広告バナーを作ってみる
第9回	【実践課題 1】 ネット広告の戦略立案 1：ネット広告戦略の調査
第10回	【実践課題 1】 ネット広告の戦略立案 2：調査に基づき、自分で商材を設定して、戦略と広告導線を設計する
第11回	【実践課題 1】 ネット広告のクリエイティブ制作 1：戦略と導線に基づき、バナー広告を制作する
第12回	【実践課題 1】 ネット広告のクリエイティブ制作 2：戦略と導線に基づき、Web ページ（ランディングページ）を制作する
第13回	【実践課題 1】 ネット広告のクリエイティブ制作 3：戦略と導線に基づき、広告バナーから Web ページ（ランディングページ）への誘導をプロトタイプとして制作する
第14回	【実践課題 1】 ユーザー調査：制作した広告クリエイティブをユーザー（履修者）に使ってもらい、フィードバックをもらう<グループワーク>
第15回	【実践課題 1】 最終クリエイティブの制作：ユーザーのフィードバックをもとに制作したクリエイティブを修正して、課題を提出。授業のまとめを行う。

テキスト（学生自身で購入が必要な図書）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				

指定図書（図書館に蔵書している必読を求める図書）

作って学ぶ Figma 入門 [完全版] ステップ・バイ・ステップで身につく Web/UI デザインの基本	古尾谷 真人	技術評論社	4297146789	
---	--------	-------	------------	--

参考図書（教科に関連した参考にして欲しい図書）

--	--	--	--	--

その他参考資料等

授業外学習（予習・復習）の 具体的な内容および時間数	<p>予 習：毎週授業の前にシラバスを確認し、授業で使うソフトや制作スキル、広告の知識などについてその疑問点を調べておくこと。</p> <p>復 習：授業で学んだソフトの使い方や制作スキル、広告の知識などを振り返り、ノート等にまとめておくこ</p>
----------------------------	--

	と。 時間数：各回授業外学修時間は変わりますが、平均すると各回 60 分程度の予習と復習が必要です。	
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）／グループワーク	
評価方法	評価割合（％）	備考
その他	70%	作品制作
その他	20%	グループでの相互調査
平常点	10%	授業態度と積極的な授業参加
フィードバックの方法	毎回、授業での質問は授業内でフィードバックします。また、メールでの質問も受け付けます。 授業アンケートのフィードバックは講評期間に UNIPA クラスプロファイルの授業資料に掲載します。	
授業の形態	対面授業	
授業に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> この授業では Adobe CC Photoshop、Illustrator を使用します。また、Photoshop、Illustrator の基本的な作業ができることを前提とします。 この授業では、Web ページを制作しますが、HTML、CSS などを使用したコーディングは行いません。Figma 上でのデザインとプロトタイプ制作のみ行います。 	
授業に関する実務経験	1994 年から 2007 年まで Web 制作会社、Web コンサルティング会社で 100 以上の案件を経験した。また、それ以降も企業とのつながりを維持し、最新技術の体得を心がけ、常にアップデートしてきた。そこで得た手法とツールを学生に紹介し、現場に近い形での開発技術と知識を教授できる。	